

単元名 大きい かず

配当時間 13時間

単元の目標 (1) 十進法を理解し、100までの数や100を少し超える数の表し方や意味が分かり、数字で書いたり数直線上に表したりするとともに、数の大小比較ができる。
 (2) 100までの数を「10がいくつと1がいくつ」、100を少し超える数を「100といくつ」という見方で捉えることができる。
 (3) 100までの数を10ずつまとめて数えるよさに気付き、身の回りから進んで100までの数字を見付けようとする。

標準的な展開例

01040301_001

【準備等】数え棒、位取り板、おはじき、数字カード、サイコロ、お金の模型

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 100までの数の数え方を知る。[p. 130・p. 131]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○じゃんけんで数え棒を取るゲームをし、取った数え棒を数える。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★大きいかずのあらわしかたやしくみをかんがえよう。 ○100までの数の数え方を知る。 ○あめの数や数え棒の数え方を考える。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取った数え棒の数を相手に分かりやすく伝える方法を自由に考えさせる。 ・数え棒を数える際、どちらが多いかすぐに分かるような工夫をさせる。 ・10ずつまとめて数えるように助言する。 <p>【評】100までの数を、10のまとまりを作って数える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「10がいくつと1がいくつ」のように数えさせる。
<p>2 100までの数の書き方を知る。[p. 132]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★100までのかずをすうじでかこう。 ○十の位、一の位の意味を知る。 ○100までの数の書き方を知る。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・位取り板や数え棒を基にして、用語を理解させる。 ・ばらがない場合は、一の位に0を書くことを知らせる。 <p>【評】位取りに従って2桁の数を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2桁が十の位と一の位からできていることを実感させる。
<p>3 十進位取り記数法に基づいて、2桁の構成の理解を深める。[p. 133]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★100までのかずをすうじやかぞえぼうであらわそう。 ○示された数を数字で書く。 ○数字で示された数だけ、数え棒を並べる。 ○数字で示された数が10がいくつと1がいくつで構成されているかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一の位が0になる数も取り扱う。 ・位取りを意識して、10の束を左に、ばらを右に並べさせる。 ・児童の実態に応じて、位取り板を利用する。 <p>【評】数字で表したり、数え棒を並べたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100を10が10個集まったものと、99より1大きいものというように、2通りの見方ができるようにさせる。
<p>4 100までの数の数え方や表し方に習熟し、100という数について理解する。[p. 134]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★100というかずについてかんがえよう。 ○100ある具体物を数える。 ○100を10のまとまりを基にして捉えたり、99の次の数として見たりする。 ○100を書く練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全部で100あることを確認する。 ・10ずつまとめて数え、「10のまとまりが10個」と考えたり、1から順に数えたことを基に「99の次」と表現させたりする。 ・「100」と書き、「ひゃく」と読むことを知らせる。 <p>【評】具体物を数える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100までの数について、逆から数えたり、ある数から順に数えたりして100までの数を習熟させる。
<p>5 100までの数の数表を通して、数構成や数系列を考える [p. 135]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★100までのかずをよんだりかいたりしよう。 ○数字を順に読んだり書いたりする。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・横1列や縦1列を読ませて、数の並び方で共通しているところに気付かせる。他の列においてもその規則性が成り立っているか、数表を基に確認する。 <p>【評】数表に関心をもち、きまりを見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

<p>6 100までの数の大小を考える。[p. 136]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 100までのかずの大きさをくらべをしよう。 ○ 数の大小の問題に取り組む。 ○ 数の順序や数系列の理解を深める問題に取り組む。 <p>7～8 100までの数の系列や順序を理解する。[p. 137]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ かずを大きいじゅんや小さいじゅんにならべよう。 ○ 数の大小比較の考えを活用して、数の大きい順に並べる ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 「すごろく」遊びをする。 <p>9 100までの数字の使われ方を調べる。[p. 138]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書の写真を見て、100までの数字の使われ方を知る ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ みのまわりから100までのすうじをみつけよう。 ○ 学校の中で、100までの数字が使われている場面を調べる。 <p>10 いろいろなお金の出し方を考える。[p. 139]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ いろいろなおかねのだしかたをかんがえよう。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>11～12 120程度までの数の読み方や書き方を知る。[p. 140・p. 141]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 100をこえるかずをかぞえよう。 ○ 100を超える数の数え方を知る。 ○ 100を超える数を数字で表す。 ○ 品物の値段について考える問題に取り組む。 ○ 数直線上に入る数字を考える。 <p>13 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 142・p. 143]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめよう」に取り組む。 ○ 学習の振り返りを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十の位、一の位の順に注目させ、大小が比較できるようにさせる。 ・ 十の位の大きさを比べ、十の位が同じ場合は一の位で比べればよいことを確認する。 <p>【評】 100までの数について、大小を判断する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームを楽しみながら、100までの数の大小や順序、数系列について理解を深めさせる。 ・ 数字カードをよく混ぜて裏返し、1枚ずつ取らせて数の大きい順に並ばせる。 ・ 前時の学習の大小比較の考えを生かして、手際よく判断させる。 ・ 数表を使って、確かめながら練習させるとよい。 ・ 5進む、10戻るなどの意味を十分に理解させる。 <p>【評】 100までの数について、系列を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の写真だけでなく、身の回りの写真を見せ、100までの数字がどのような場面で活用されているか気付かせる。 <p>【評】 身の回りにある100までの数字を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 100までの数字が生活の中で使われている場面を探すことで、算数と生活との関わりを実感させる。 ・ お金の模型を位をそろえて置かせ、それぞれの位にあるお金の模型を操作することによって計算の仕方をつかませる。 ・ 硬貨の種類ごとに計算することが分かるようにし、位をそろえて位ごとに計算する考え方につなげる。 ・ ペアやグループで取り組ませ、いろいろな出し方を考えさせる。 <p>【評】 いろいろなお金の出し方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 100といくつという観点で数の構成に着目させ、2桁の理解をより確かなものにする。 ・ 百の位として扱うのではなく、100といくつという見方で捉えさせる。 ・ 十の位や一の位が0の場合の表記の仕方に注意させる。 ・ 買える、買えないが判断できない児童には、数表を利用させる。 <p>【評】 100を超える数について、100といくつとみる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きい数について分かったことや楽しかったことなどを話し合わせる。
---	--

【 備 考 】
 本単元は、100までの数の概念を身に付ける学習である。単元の構想に当たっては、十進位取り記数法の基礎として、具体物を10ずつまとめて数えたり、示された数を10のまとまりがいくつとばらがいくつとで構成したりするなど、操作活動を取り入れて指導することが大切である。